

| | |
|----------------------|-----------------------------------|
| 研究課題名 | ピーナッツ経口免疫療法の維持期における最適な維持方法の探索 |
| フリガナ | フジタ マユミ |
| 代表者名 | 藤田 真弓 |
| 所属機関（機関名） （役職名） | 神奈川県立こども医療センター アレルギー科 シニアレジデント |
| 本助成金による発表 論文，学会発表 | |

研究結果要約

ピーナッツの経口免疫療法（oral immunotherapy : OIT）の有用性が報告されているが、維持期に継続的な摂取が必要であり、ピーナッツに対する嗜好などからアドヒアランスが低下し、摂取を中断する例もある。このため、免疫学的な変化を維持できる摂取量と摂取間隔を検討する目的で本検討を実施した。対象となった患者は 41 人であり、そのうち経過を追えた 31 人のデータを解析した。2022 年 3 月時点での rush OIT 後の維持期のピーナッツの 1 回摂取量は 4g（中央値）、1 か月の摂取回数は 4 回（中央値）、1 か月の摂取量は 24g（中央値）であった。OIT 開始前と維持期でのピーナッツ特異的 IgE 値は、1 回にピーナッツ 3g 以上を摂取していた児で有意に低下しており、3g 未満では有意差は認められなかった。月の摂取回数や月の摂取量では量によらず、ピーナッツ IgE 値は有意に低下していた。Ara h 2 特異的 IgE 値は有意差は認められなかったが、全例で低下していた。維持期でのピーナッツ特異的 IgG4 値と Ara h 1・Ara h 2・Ara h 3・Ara h 6 特異的 IgG4 値については、いずれも 1 回摂取量や月の摂取回数、月の摂取量での有意差は認められなかった。ピーナッツおよび Ara h 2・Ara h 6 特異的 IgG4 値は Ara h 1・Ara h 3 特異的 IgG4 値に比べて維持期で上昇していた。

本検討では月の摂取量や摂取回数よりも 1 回の摂取量がピーナッツ IgE 値の変化に影響を及ぼしている可能性が示唆された。今後はさらに細かく摂取量を分けて検討していく必要がある。